

ハンドブック作成

長崎大歯学部と県相双
保健事務所など

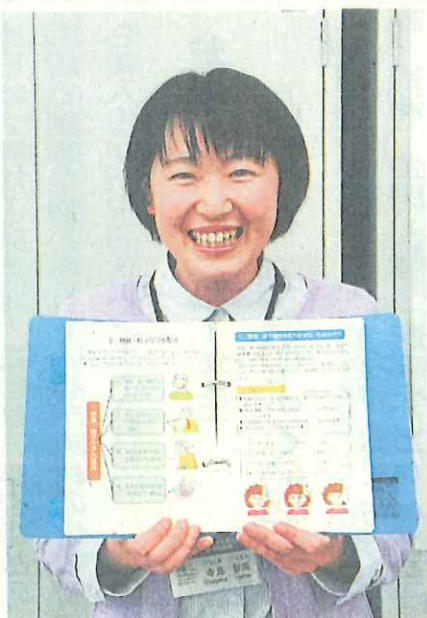
摂食・嚥下障害の基礎知識、対応 1000部、自治体などに配布へ

長崎大歯学部と国立
大学協会、県相双保健
事務所は三日までに、
摂食・嚥下（えんげ）
障害の基礎知識や対応
などをまとめた「支援
者のための摂食・嚥下
ケアハンドブック」を
作成した。

東日本大震災後、避
難生活の長期化により
高齢者を中心に心身、
口腔（こうくう）の機
能低下による摂食・嚥
下障害が目立ってい
る。適切なケアの必要
性から、震災後に相双
地域の避難所などで口

腔ケアに当たった長崎
大歯学部と相双地域の
医師、歯科医師、老健
施設代表、栄養士、保
健師らによる検討会を
設置した。平成二十四
年九月から二十五年一
月まで、三回にわたり

地域の現状や問題点、
ハンドブックの素案な
どを協議した。
B5版で六十七ページ。
地域の保健や医療、介
護関係の支援者が的確
に対応できるよう専門
家の知見をハンドブッ



摂食・嚥下ケアのポイントな
どをまとめたハンドブック

クに盛り込んだ。食べ
るとむせるなどする摂
食・嚥下障害の仕組み
やのみ込む筋力の鍛え
方、かたくり粉などを
用いた飲み込みやすい
食事のレシピなどを紹
介している。リングフ
ァイルで、必要に応じ
て一冊ずつ取り出せ
る。

長崎大学歯学部の平
成二十四年度震災復興
・日本再生支援事業を
活用し、千部作成した。
相双地域の医療機関や
歯科診療所、介護施設、
自治体などに配布す
る。今後、同事務所管
内でハンドブックの活
用した講習会の開催を
予定している。